

JET 通信

第114号 2026年4月15日

発行：学校法人 JET 日本語学校 / JET 日本語学校後援会

12月の日本語能力試験(JLPT)結果

2025年度のN1合格41名

N1 校内ベスト3 (180点満点)				
順位	クラス	氏名	出身	得点
1	C	梁 詠欣	香港	168
2	A	鄭 丞傑	台湾	152
3	C	蔡 子風	香港	143

N2 校内ベスト3 (180点満点)				
順位	クラス	氏名	出身	得点
1	E	蘇 晉猷	台湾	180
2	E	RYAN LIM YU XUAN	マレーシア	159
3	E	吳 兆迪	台湾	138

12月7日に実施された2025年度第2回日本語能力試験(JLPT)の結果が、1月下旬に発表されました。JETからは、N1からN4まで合計84人(在籍者の約半数)が受験し、合格者はのべ57人、合格率は67.9%でした。

今回の試験からは、CEFRの尺度による到達度が参考表示されています。57人の合格者のうち、熟達した言語使用者であるC1レベルは3人、自立した言語使用者のうち上位のB2レベルが31人、下位のB1レベルが17人でした。

N1の年間合格率 7割

N1では38人が受験し24人が合格しました。合格率は63.2%(国内外全体では29.8%)、校内平均点は105.2点(国内外全体で89.7点)でした。この結果、2025年度の合格者総数は、2023年度の38人を超す41人となり、過去最高を記録しました。また年間を通してのN1合格率は69.5%となりました。

今回のN1合格者のうち7人は、2024年4月に初級クラスから始めた学生で、非漢字圏の学生や40代の学生もいます。年齢や国籍に関係なく、JETでしっかり学べばN1に合格できるという証明です。

N1各分野でのべ5人が満点

各分野で満点(60点)だったのは、のべ5人でした。「言語知識」の分野では梁詠欣さん、「読解」では許芷婕さんと張珈嫻さん(ともにAクラス・台湾)の2人、「聴解」では梁詠欣さんと増淵ジョージ倭さん(A・日本)の2人が満点でした。許芷婕さんと張珈嫻さんは、7月実施のN2の試験でも「読解」で満点でした。

N2で蘇晉猷さんが満点合格

N2では26人中18人が合格しました。合格率は69.2%で、校内平均は107.5点(国内外全体では33.0%、83.8点)でした。非漢字圏の学生の合格者は8人、合格率は80%でした。

これで2025年度のN2合格者総数は56人、合格率は81.2%となりました。

蘇晉猷さんは見事満点で合格しました。各分野で満点をとったのは、蘇さんの他、「読解」でRyan Lim Yu Xuanさん、「聴解」でSharren Gouwidjajaさん(C・インドネシア)でした。(各分野とも60点満点)

4月生55名入学

新学期開始

4月期、新入生を55名迎えました。国籍は台湾、タイ、インドネシア、マレーシア、香港、アメリカ、日本と、7つの国・地域に及びます。

1日にクラス分けテスト、2日に入学式、オリエンテーション、歓迎会を行い、6日から124名、7クラスで授業がスタートしました。(8面に関連記事)

北区日本語教室

JETが業務受託

4月1日、北区日本語教室の運営業務について、北区はJETと委託契約を締結しました。これまでもJETは教室の運営に携わってきましたが、2026年度からはJETがより主体的に事業を実施し、一層の充実を図ります。(6面に関連記事)

タイ国の大学とMOUへ

バンコクのキングモンクット大学ラートクラバン校と連携協力協定を結ぶことが決まりました。写真は、2月、ティティソーン・セーンウライ日本語学科長と握手を交わす越野充博理事長。(6面に関連記事)



11月の日本留学試験(EJU)結果

進学クラス平均 273.1点

世界平均を37.7点上回る

「日本語」校内ベスト3 (400点満点)				
順位	クラス	氏名	出身	得点
1	A	黄焯鈴	香港	351
2	A	盧巧妍	マカオ	344
3	B	王緯綸	台湾	336

2025年11月9日に世界14の国・地域で実施された日本留学試験(EJU)の結果が、12月中旬に発表されました。国内外の総受験者数は24,545人(うち日本国内は18,267人)でした。

JETからは19人(うち進学クラス17人)が試験に挑みました。黄焯鈴さんが日本語で400点満点中351点(6月実施のEJUから48点アップ)を獲得し、校内トップでした。世界最高点は371点でした。

進学クラス(A、B)の平均点は273.1点で、全受験者の平均235.4点を37.7点上回りました。

「読解」で盧巧妍さん

得点状況を分野別に見ると、「読解」(200点満点)では、盧巧妍さんが195点で校内トップ。世界最高点の198点まであと3点でした。進学クラスの平均は151.9点で、全受験者の平均135.4点を16.5点上回りました。

Andrew Anderson Thioさん(B・インドネシア)は、6月のEJUより46点も伸びて、161点と健闘しました。

「聴解・聴読解」で黄焯鈴さん

「聴解・聴読解」(200点満点)では、黄焯鈴さんが校内最高の159点でした。進学クラス平均は121.2点で、全受験者の平均100点を21.2点上回りました。

Bクラスの王緯綸さんは、6月から34点伸びて155点(校内2位)という成績でした。王さんは合計でも57点アップしました。

「記述」で9割得点 7人

「記述」(50点満点)では、黄焯鈴さん、盧巧妍さん、許芷婕さん(A・台湾)、劉樂熹さん(A・香港)、Theresa Gracelynn Tedjaseputeriさん(A・インドネシア)、Andrew Anderson Thioさん、Alexsyana Zhara Angeliaさん(B・インドネシア)の7人が45点で校内最高でした。進学クラス平均は40.6点でした。全受験者の平均は34.3点でした。

基礎教科でも健闘

EJUでは、日本語の他に基礎教科の試験もあります。文系の分野では、王緯綸さんが、「数学」、「総合科目」

の合計(400点満点)で校内最高の301点、理系の分野では増渕ジョージ俊さん(A・イギリス)が、「数学」、「化学」、「生物」の合計(400点満点)で校内最高の235点でした。

卒業式 69名が修了

3月12日、卒業式が行われ、69名(進学科27名、基礎科42名)が修了しました。卒業生代表の挨拶は、Aクラスの劉宸均さん(台湾)が務めました。

皆勤賞 6名

卒業式では、皆勤賞の表彰も行われました。基礎科で2年間の皆勤は葉致顯さん(台湾)、1年間は王苡安さん(台湾)、張庭彦さん(台湾)、楊穎芝さん(コスタリカ)の3名、進学科で1年半は鄭丞傑さん(台湾)、1年は劉宸均さん(台湾)でした。後援会から図書カードが贈られました。



進学者数は44名に

2025年度の進学者数は44名にのびました。進学先別では、大学院10名(修士課程7名、博士課程3名)、大学(学部)18名、専門学校16名でした。(合格校は3面に掲載)

卒業後の就職状況

3月31日現在、2025年度卒業生88名(9月と3月)のうち14名が国内で就職の内定を得ています。

この他に、卒業後の「就職活動のための特定活動ビザ」取得予定者が5名おり、内定者はさらに増える見込みです。

なお、2024年度卒業生の国内就職内定者および決定者は、15名となりました。

祝 合 格

大学院

＊国立東京学芸大学大学院 教育学研究科 教育支援協働実践開発専攻 教育協働研究プログラム修士課程(台湾) ＊国立東京農工大学大学院 農学府 共同獣医学専攻(台湾) ＊国立北陸先端科学技術大学院大学 人間情報学研究領域博士前期課程(タイ) ＊国立筑波大学大学院 人間総合科学学術院 人間総合科学研究学群 ニューロサイエンス学位プログラム 博士前期課程(香港) ＊国立筑波大学大学院 人文社会ビジネス科学学術院 博士後期課程(インドネシア) ＊国立一橋大学大学院 社会学研究科 博士後期課程(インドネシア) ＊東京工科大学大学院 バイオ・情報メディア研究科 メディアサイエンス専攻 博士前期課程(タイ) ＊近畿大学大学院 建築学研究科 建築工学専攻 修士課程(台湾) ＊明治大学大学院 理工学研究科 建築・都市学専攻建築学系 博士前期課程(台湾) ＊神戸芸術工科大学大学院 芸術工学研究科 総合アート&デザイン専攻 修士課程(台湾) ＊酪農学園大学大学院 獣医学研究科 獣医学専攻 博士課程(台湾) ＊立命館大学大学院 人間科学研究科 人間科学専攻実践人間科学領域 博士前期課程(台湾) ＊京都芸術大学大学院 芸術研究科 芸術環境専攻イラストレーション・パブリッシングデザイン領域 修士課程(台湾)

大学

＊国立福井大学 工学部 応用物理学科(台湾) ＊甲南大学 文学部 日本語日本文学科(タイ) ＊東洋大学 経営学部 会計ファイナンス学科(マレーシア) ＊日本大学 商学部 商業学科(台湾) ＊東海大学 文学部 日本文学科(タイ) ＊武蔵野大学 法学部 法律学科(香港) ＊関東学院大学 法学部 法学科(香港) ＊東洋大学 社会学部 社会心理学科(インドネシア) ＊桜美林大学 リベラルアーツ学群(社会領域)(インドネシア) ＊聖心女子大学 現代教養学部(香港) ＊日本大学 理工学部 海洋建築工学科(マカオ) ＊多摩美術大学 美術学部 絵画学科油画専攻(香港) ＊和光大学 表現学部 芸術学科(香港) ＊東海大学 理学部 数学科(インドネシア) ＊立命館大学 理工学部 数理科学科(インドネシア) ＊京都光華大学 健康科学部 健康栄養学科健康スポーツ栄養専攻(インドネシア) ＊拓殖大学 商学部 経営学科(台湾) ＊東洋大学 経営学部 会計ファイナンス学科(台湾) ＊武蔵野大学 グローバル学部 日本語コミュニケーション学科(マカオ) ＊拓殖大学 商学部 会計学科(インドネシア) ＊ものづくり大学 技能工芸学部 情報メカトロニクス学科(アメリカ) ＊東京工芸大学 工学部 工学系機械コース(アメリカ) ＊湘南工科大学 工学部 機械工学科(アメリカ) ＊東京富士大学 経営学部 イベントプロデュース学科(香港) ＊帝京科学大学 生命環境学部 アニマルサイエンス学科(マカオ)

専門学校

＊北海道立北の森づくり専門学院(台湾) ＊専門学校早稲田国際ビジネスカレッジ 国際教養学科 キャリアデザインコース(台湾) ＊東放学園映画アニメ CG 専門学校 小説創作科(香港) ＊文化外国語専門学校 語学専門課程日本語教師養成科(香港) ＊ICS カレッジオブアーツ インテリアマイスター科(台湾) ＊資生堂美容技術専門学校 美容師科(インドネシア) ＊東京モード学園 ファッションビジネス学科(香港) ＊HAL 大阪 情報処理科(香港) ＊東京マルチ・AI 専門学校 情報ビジネス科(台湾) ＊東京アニメーションカレッジ専門学校 総合アニメーションコース(インドネシア) ＊東京俳優・映画&放送専門学校 映画制作科 動画クリエイター専攻(台湾) ＊日本電子専門学校 AI システム科(台湾) ＊東京製菓学校 和菓子本科(台湾) ＊大阪アミューズメントメディア専門学校 ゲームクリエイター学科(台湾) ＊専門学校ミュージシャンズ・インスティテュート東京 ミュージックアーティスト科 ギターコース(台湾) ＊専門学校 ESP エンターテイメント東京 音楽アーティスト科 シンガーソングライターコース(台湾)

2026年度の奨学生決まる

2026年度高山国際教育財団の奨学生(JET 在学中に受給)に、鄧昊明さん(台湾)と Cheong Zoey さん(マレーシア)の2名が決まりました。

JASSO 学習奨励費予約制度(大学学部進学後の1年間受給)の奨学生には6名が支給対象者として選ばれ、3名の受給が決定しました。(残りの3名は大学院に進学するなどの理由で辞退しました。)

後援会会費納入のお願い

JET 日本語学校後援会は奨学金・学習奨励金の給付等、本校で学ぶ学生達を支援しています。また、学校行事の際の補助金は、後援会からの支出によるものです。

2025年度は、87,000円のご支援をいただき、誠にありがとうございました。本校の教育事業にご賛同いただける方は、会費を納入していただければ幸いです。

★★★

年会費：3000円 賛助会費(一口)：2000円

郵便為替口座:00140-1-101927 JET 日本語学校後援会

★★★

海外からのお振込みの場合は手数料のかからない
決済代行サービス flywire をご利用いただけます。

<https://www.flywire.com/pay/jet-academy/>

桜美林大学から教育実習生

昨年12月8日から2週間、桜美林大学の学生2名がJETで教育実習を行いました。今回の実習を、指導教授の川田麻記先生とともに、振り返っていただきました。

一人ひとりに寄り添う日本語教育

桜美林大学 池田 結羽

実習期間中は、実際の日本語教育の現場に触れる中で、多くの学びや気づきを得ることができました。特に印象に残っているのは教壇実習です。学習者の理解をどのように確認するかという点の難しさを強く感じました。「わかりましたか」と尋ねれば理解を確認できるものと考えていましたが、学習者は十分に理解できていなくても時々「はい」と答えることに気づきました。そのため、具体的な質問を投げかけたり、学習者自身に文を作ってもらったりすることで、理解の程度を引き出す必要があると学びました。この経験を通して、教師は単に説明をするだけでなく、学習者の理解を確かめながら授業を進めていくことが重要であると実感しました。

授業の中では、学習者が日本語を使ってコミュニケーションを取ろうとする姿が多く見られました。言葉に詰まりながらも、自分の考えを日本語で伝えようとする様子が印象的でした。また、学習者同士で分からない部分を教え合う姿も見られ、互いに助け合いながら学習を進めていることが伝わってきました。そのような姿から、学習者同士が互いに支え合いながら学ぶことができる環境の素晴らしさを感じ、日本語を学ぼうとする学習者の努力や意欲の大きさを強く実感しました。

さらに、日本語教育は単に言語を教えるだけではなく、学習者一人ひとりの背景や目的に寄り添う教育であることも感じました。日本語を学ぶ理由は人それぞれであり、日本で生活するため、進学のため、日本の文化に興味を持ったためなど、さまざまな思いを持って日本語を学んでいることを知りました。そのような思いを支えながら学習を支援することの大切さを感じました。

今回の教育実習を通して、日本語教育の奥深さや教師の役割の大きさを改めて実感することができました。日本語を母語とする一人として、日本語を学ぶ人々に寄り添いながら、言語を通して人と人をつなぐ存在でありたいと思いました。そして、学習者が安心して日本語を使い、自分の考えを表現できるような環境を支えていきたいと感じました。

学習者と伴走し理解すること

桜美林大学 小汲 唯奈

本実習を通し最も学んだことは「日本語教師は学習者の伴走者であり理解者である」という観点です。授業以外の時間も学生たちと親身に向き合い、常に対等に隣を走っておられる先生方を目の前にし、学生を学習者以上に一人の人間として捉えていることを実感しました。それを受け、楽しく学びの多い授業が確立している背景には、学生との密なラポール形成があり、学生がもつそれぞれの多様性を強みとして受け入れ、魅力として引き出しているという基盤があることに気づきました。学習者がもっている言語・文化資源及びあらゆるバックグラウンドは豊かな授業を形成するための重要な要素であると私は考えています。

将来はそれぞれが内側に秘めている強みや可能性を引き出し教師も学習者もエンパワーメントを向上させられる授業を展開できるような日本語教師を目指しています。ただそれと同時に、学習者の多様性を拡大させるためには、教師側の多様性や対等性が今後の日本語教育界の課題になってくると痛感しています。どのような立場であっても人は他者と力を補完し合いながらバランスを取って生きています。そこに排除されてよい人間はいません。学習者の多様性や学ぶ権利が守られるように、日本語教師の多様性や持続可能性が守られる未来が来ることを願い、一歩ずつ私も夢に向かって前進していきたいと思えます。

改めて2週間大変お世話になりました。学生の皆様が納得した道にそれぞれ進むことができるよう、心より応援しております。



左から小汲さん、指導教官の川田先生、池田さん。

「ことばを教える場」から「人が育つ場」へ

—日本語教育現場のケアの営みと多様性を育む連携—

桜美林大学リベラルアーツ学群 教授 川田麻記

今年度、桜美林大学日本語教員養成課程における教育実習を、初めてJET日本語学校にて実施させていただきました。山口校長先生をはじめ、諸先生方には実習生の受け入れにあたり多大なるご理解と温かいご支援を賜りましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

本学とJET日本語学校とのご縁は、かつて貴校で教鞭を執られていた本学教員の荻原まき先生が、2021年12月にご紹介くださったことがきっかけでした。コロナ禍の影響が残る当時、オンラインでの交流会から始まり、学生主体の学校イベントである大忘年会へのご招待や4年生のインターン受け入れなど、様々な形で日本語教育に関心を持つ本学学生を支えていただきました。今回の教育実習は、こうした積み重ねの中で、山口校長先生と「日本語教育人材の育成」について対話を重ねることで実現したものです。

初めての試みということもあり、大学での事前学習だけでは現場のリアリティを想定しきれず、準備が難航した場面もありました。山口先生や現場の先生方、そして学習者の皆様には、時にもどかしい思いをさせてしまったかもしれません。しかし、現場のプロフェッショナルとして時に厳しく、時に温かなまなざしで実習生を見守ってくださいました。

実習を終えた学生たちの振り返りで印象的だったのは、「外側から見ていた日本語学校」と「内側から見てきた日本語学校」の姿の違いです。当初、学生たちにとって日本語学校は、単に「ことばと文化を教える場」でした。しかし、実習を通じて、日本語学校は「人が育つ場」である

と捉えるように変化していったと言います。この変容の背景には、多様な背景を持つ学習者が共に学ぶ姿や、それを丁寧を支える先生方の「ケアの営み」に触れた経験がありました。学びの「質」を学習者一人ひとりの生活や将来展望に結びつけようとするJET日本語学校の先生方の姿勢は、実習生にとって、教師としても人としても、得難い学びになったと確信しています。

また、「学習者の多様性」と同時に「教師の多様性」をいかに現場に活かすかという課題についても、大きな示唆を得ました。教師が「当たり前」を問い直し、その信念を共有する仲間と協働することの重要性を痛感した一方で、日本語教育現場における様々な社会課題も見えてきたように思います。現在の日本語教育現場の多くが、JET日本語学校と異なり、社会的マイノリティである学習者や実習生の受け入れに前向きとはいえない現状があります。これらの課題は、往々にして社会の構造的問題に起因していますが、今回の連携を通して、改めてこの問題についてしっかりと考えていかなければならないと痛感いたしました。特に、教師の多様性を活かす教育・教員養成の在り方については、今後もJET日本語学校の皆様と共に考えていきたいと強く願っております。

今回の実践では、私自身、反省すべき点や新たな課題が見つかりました。これらを真摯に受け止め、次年度の実践に活かせるよう連携をさらに深めてまいりたいと存じます。

新任教師紹介

昨年11月に市川陽菜先生、今年3月に事務職の王辰尹さん、そして4月には井上花子先生が、新たにJETの教職員に加入了。また、石津慎也先生は3月に退職されました。

○市川 陽菜(いちかわ はるな)先生

みなさんと一緒にJETで過ごせることを嬉しく思います。多趣味なので、手芸やスポーツ観戦などいろいろなことをしています。最近では、おいしいクッキーを見つけることが楽しみの一つです。

○王 辰尹(ワン チェンイン)さん

台湾の台中出身です。私もかつて留学生として日本に来たので、皆さんの不安や目標に寄り添いたいと思って

います。言葉だけでなく、日本での生活面でも精一杯サポートします。どうぞよろしくお願いいたします。

○井上 花子(いのうえ はなこ)先生

日本国内のほか、韓国とマレーシアで日本語教育に携わってきました。学生の皆さんが安心して学べるよう、丁寧でわかりやすい授業を心がけてまいります。よろしく願いいたします。



市川陽菜先生



王辰尹さん



井上花子先生

JET 日本語学校での「出会い」

国際交流基金ジャカルタ日本文化センター 日本語講師 西村 愛

私は2019年4月から約半年間、JET 日本語学校でインターンシップをさせていただきました。当時はまだ大学生で、国内の日本語学校に関わるのはそのときが初めてでした。JET 日本語学校は、私が初めて出会った日本語学校であり、今につながる原点でもあります。



そもそも私が日本語教育に関心をもったきっかけは、日本語学習者一人ひとりがもつ学習理由や背景の多様さでした。学生時代に参加していた地域の日本語ボランティアでは、難民的背景をもつ方や海外につながる子どもたちが、それぞれ異なる事情を抱えながら日本語を学んでいました。日本語を学ぶとはどういうことなのか、何のために、どのような「ことば」が必要なのか。学習者一人ひとりに寄り添う教育への関心が、次第に強くなっていきました。

JET 日本語学校でのインターンシップでは、教室での授業見学だけでなく、留学手続きや生活面の相談対応など、日本語教師の仕事の幅広さを間近で学びました。学習者が教室の外でも社会の一員として生きていけるよう、日本語を通して支える先生方の姿は、今も強く心に残っています。

その後、国際交流基金が派遣する「日本語パートナーズ」の一員としてインドネシアの高校にて現地日本語教師のアシスタントとして活動しました。日本語パートナーズは、教育現場での協働を通して相互理解を深める目的もあり、私自身も多文化社会の中で学び続ける姿勢を育ててもらいました。帰国後は大学院で学びながら地域日本語活動や定時制高校などで日本語教育に関わり、修了後はインドネシアの国立大学で常勤日本語講師として勤務しました。文化や宗教の異なる職場で教授法や教材作成、評価について試行錯誤する日々は、日本語教師としての私を大きく成長させてくれました。

インターンシップ時代に会った JET 日本語学校の学

習者の皆さんとは、今も交流が続いています。インドネシアやマレーシアなどで国を越えて再会し語り合う時間は、初心を思い出させてくれる安心できるひとときです。

現在は、日本での就労を希望する方々に日本語を教えるインドネシアの職業訓練校などの先生方を対象に、教授法研修を行っています。JET 日本語学校で学んだ「一人ひとりと向き合い、一人の人間として関係を築く姿勢」は、オンライン中心の研修の中でも大切にしています。研修でかわる先生方の先には、いずれ日本で暮らす学習者がいます。試験のためだけではなく、日本で安心して豊かに生きるための日本語とは何かを常に想像しながら、これからも JET 日本語学校での学びを胸に歩んでいきたいと思っています。



↑インドネシア・マランの大学で最後の授業を終えて。



←写真左、2021年JET卒業のメリーさんと昨年9月にジャカルタで再会。写真右、2021年卒のレオンさんと昨年2月にマレーシアで再会。

タイ国キングモンクット大学から短期生

キングモンクット大学ラートクラバン校との MOU 締結に先立ち、4月、同校より短期生8名を受け入れました。JETでの履修が大学の単位として認められます。

2月に越野理事長が教養学部のアティチャット副学部長

(写真右)とティティソン日本語学科長(写真左)を表敬訪問した際は、トリッティマー・ルキックラックさん(2006年卒)が通訳を務めました。



(1面より)

北区の日本語教育 一層の充実に向けて

今年度の北区日本語教室は3期、各10~14回、レベル別に3クラス開講する予定です。4月期は全体で約60名が参加(応募者は約70名)。JETの講師3名とボランティアのサポーター30名の体制で、「自立した日本語使用者」としてのレベル達成を目指します。



(1面より)

学 校 日 誌

●1月16日 能楽鑑賞会「能楽堂ショーケース」

国立能楽堂で、狂言「清水」と能「箆(えびら)」を鑑賞しました。9人が参加。能面をつける体験もしました。

●1月21日～23日 都の北学園中学生職場体験

●1月24日・25日 マレーシアでの日本留学フェア

クアラルンプールで開催された JASSO 主催のフェアに、山下先生が出張参加。現地の ATOZ Language Centre の皆様と卒業生たちのおかげで、JET のブースは大賑わいでした。



●2月3日 節分豆まき

●2月8日 大相撲

トーナメント観戦

両国国技館で12人が観戦しました。義の富士と記念写真を撮りました。(主催: フジテレビジョン)



●2月21日 板橋区の日本語スピーチと日本舞踊

(公財)板橋区文化・国際交流財団主催による日本語スピーチ大会に、Sok Sabaye Tony さん(フランス)と高紹芳さん(台湾)が参加しました(写真左)。この大会で Sabaye さんと葉瑞敏さん(台湾)、Latifa Dani Wicaksana さん(インドネシア)は、日本舞踊にも挑戦しました(写真右)。



●3月1日 オーケストラコンサート

練馬文化センター大ホールで行われた高田馬場管絃楽団の定期演奏会に、15人が招待されました。

●3月10日 大展示会

昨年に続き第2回となる大展示会。今回は校内各教室を会場に行いました。絵画や漫画、書、写真などの展示の他、バンド演奏、演劇発表もありました。約20組の出演・出演の中でも、於穎敏さん(香港)の本格的な絵画作品と、日本事情クラス「エチュード」のメンバーによる寸劇発表は大勢の注目を集めていました。



大展示会で評判になった於穎敏さんの力作

●3月3日 漢字の期末テスト満点

Sriwiboonrattana Kanoknapat さん(Aクラス・タイ)と劉宸維さん(Aクラス・台湾)が見事満点。賞状とともに漢字練習帳などが贈られました。



●3月12日 卒業式

●3月14日・15日 台湾で日本留学説明会に参加

高雄、台中、台北で行われた JPTIP 主催の日本留学フェアに、得猪先生と郷野先生が出張参加。今回も卒業生たちの強力な応援により、実り多いイベントになりました。



●3月26日 実践報告会

今回は、原摂子先生と山下なつみ先生が登壇しました。原先生は、「日本事情」クラスの「大人の社会科見学(裁判所編)」の今後の展望と課題について、山下先生は、「思考力トレーニング」を取り入れた授業の経緯と今後の課題について、先生方の前で発表を行いました。

●4月12日 フルートコンサート

フルート奏者の佐々木真さんが、室内楽の演奏会に10人を招待してくださいました。写真は、大泉学園のゆめりあホールにて佐々木さんと。



山口校長の入学式挨拶

新入生のみなさん、ようこそ日本へ。そして、ようこそ JET 日本語学校へ。春ですね。もう花見をしましたか。



インターネットで情報を集めて、桜の名所を訪れた人がいるかもしれません。

しかし、特に有名でなくても、日本では美しい桜が身近なところにたくさん見られます。学校のすぐ近くにもいい場所がありますよ。ぜひ、自分の足で歩いて発見し、自分の目で見て、自分の心で感じてください。外からの情報だけに頼るのではなく、自分自身の経験を大切にしましょう。

留学生活も同じです。自分から積極的に学び、新しいことに挑戦し、様々な活動に参加して経験を積み重ねてください。その一つ一つが、皆さんを大きく成長させ、やがて美しい花を咲かせる力になります。

桜の話をもう一つします。

沖縄の桜は満開にならないことが多いそうです。その理由は、冬の寒さが十分でないからです。桜が美しく咲くためには、寒い冬をじっと耐える時間が必要なのです。

これは皆さんのこれからの学びにも通じること。冬のように厳しい時期や、思うようにいかず辛いと感じる時期があっても、その時間を我慢し、自分を信じて努力し続けることで、やがて大きく花を咲かせることができます。

今、皆さんは「頑張ろう」という気持ちでいっぱいだと思います。

しかし、時間がたつとその気持ちが薄れてしまうことがあります。

そんな時は、「やらざるを得ない環境に自分を置くことが大切だ」と元官僚の村木厚子さんという人が言っています。

例えば、日本語しか使えない環境に身を置くとか、スマートフォンで調べられない環境を自分で作る、ということです。つまり、日本語が上手になる環境を自分で作ってみるということです。

私から二つお願いがあります。

一つ目は「読書をしましょう」ということ。

JETには「よむよむ文庫」という130冊以上のレベル別教材があります。難しいものに挑戦する必要はありません。やさしいものをたくさん読んでください。思考力が育ち、言葉が伸びます。「よむよむ会」という授業もありますので、積極的に参加してください。

二つ目は「自分で楽しい学校を作りましょう」ということです。

先生たちは日々努力していますが、学校を本当に楽しくするのは、学生一人ひとりの力です。受け身ではなく、ともに考え、ともに楽しみ、より良い学校をつくっていきましょう。

JETの校訓は「天は自ら助くる者を助く」です。

全ての教室に掲示してあります。努力する人は神様が必ず助けてくれる、という意味です。

自分で人間関係を築き、健康に気を配り、積極的に学んでください。

皆さんのこれからの日本での学びと生活が、実り多いものとなることを心より願っています。



入学式で新入生歓迎の言葉を述べる「先輩」たち。

【訃報】

木村 三郎さん

1988年の学校創立時から2024年まで評議員を務め、後援会会員でもあった木村三郎さんが、4月5日お亡くなりになりました。

台湾からの元留学生である木村さんは、学校のすぐ近くに新築した「木村ビル」を、学生の宿舎として提供してくださるなど、JETの学生を物心両面で支え続けてくださいました。

享年88歳。謹んでご冥福をお祈りいたします。